

# 大阪医科大学学報

Osaka Medical College News

119号

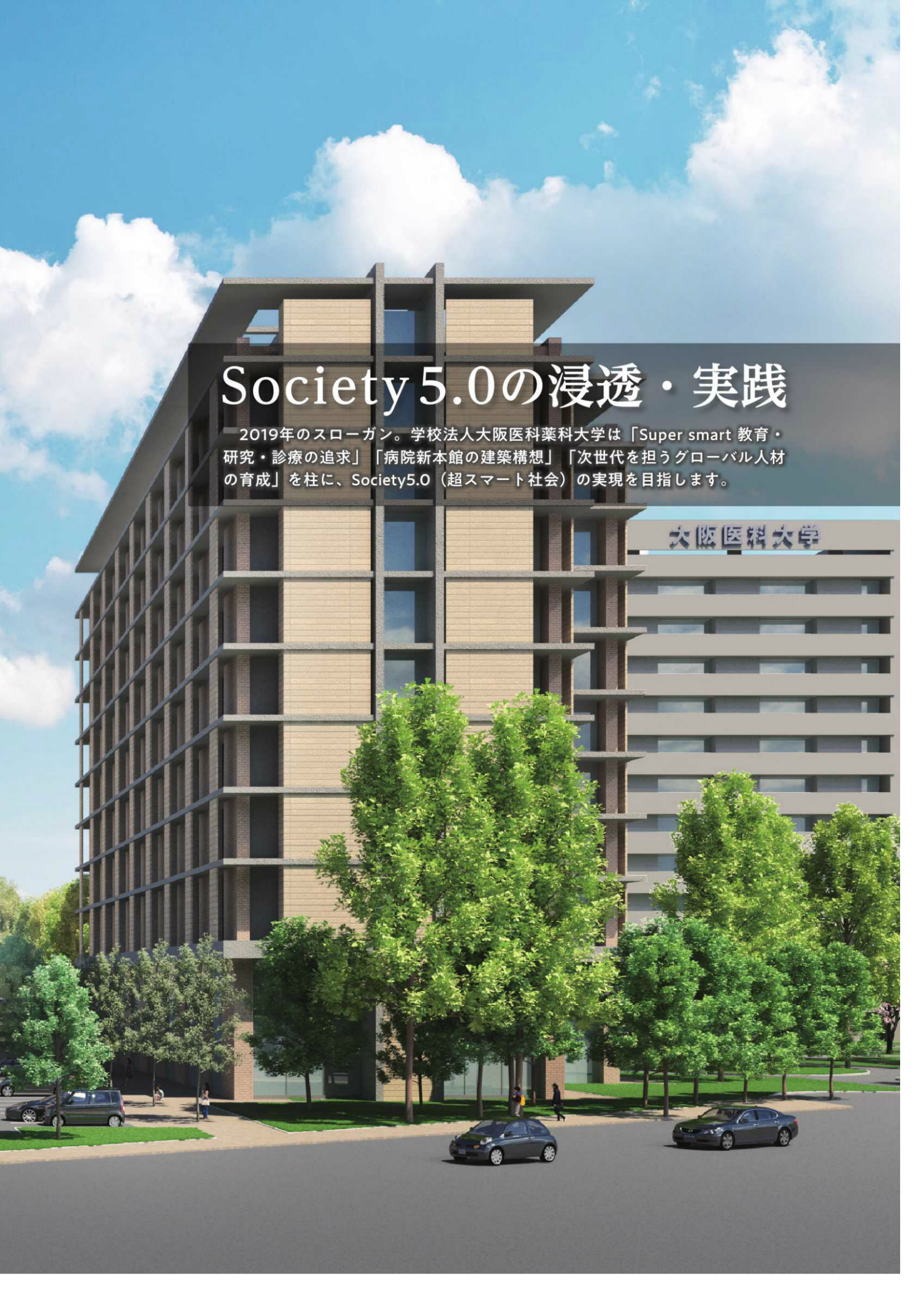
## 特集 医学教育のこれから



# Society 5.0の浸透・実践

2019年のスローガン。学校法人大阪医科薬科大学は「Super smart 教育・研究・診療の追求」「病院新本館の建築構想」「次世代を担うグローバル人材の育成」を柱に、Society5.0（超スマート社会）の実現を目指します。

大阪医科大学



## CONTENTS

## 4 医学教育のこれから

大槻勝紀学長  
中野隆史教授  
梶本宜永専門教授  
瀧谷公隆専門教授

## 6 最先端医療につなぐ研究紹介 研究室訪問

解剖学教室 近藤洋一教授

## 8 OMC TOPICS

- 黒岩敏彦教授が斎藤眞賞を受賞
- 黒岩敏彦教授、医学教育功労者にも
- ICNCTで最優秀ポスター賞に
- 高槻市と認知症対策で人材育成協定を締結
- Hans-Peter de Ruiter教授来訪
- 「市民の健康・食育フェア」出展
- 「インターバル速歩」講演会を開催
- 看護学部に「カムカムサロン」オープン
- 健康たかつき21シンポジウムにブース出展
- 第7回FD&SD「教育・研究集会」開催
- 「第1回臨床研究教育研修会」開催
- 平成30年度秋季学術講演会
- 平成30年度年賀交歓会
- 「多職種連携教育とシミュレーション教育法」講演会
- 「周術期危機管理セミナー-災害対策実践編」開催
- 平成30年度解剖慰霊祭
- 平成30年度実験動物慰霊祭
- 平成30年度大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰
- ベストティーチャー賞授賞式
- LSCが日本医学教育学会で発表
- 平成30年度（第12回）伊藤奨学基金授与式
- 小野奨学会奨学生の優秀者表彰
- CHALLENGEをテーマに学園祭
- 学生の避難訓練実施
- 平成30年度名誉・功労教授懇談会
- 外来ホールで院内コンサート
- 平成30年度市民公開講座 開催報告
- 訃報

## 15 就任のご挨拶

濱岡純治氏  
佐野浩一氏

## 研究助成金の内定・採択について

## 16 安全保障輸出管理

## 18 寄付金関連報告

## 20 高槻中・高だより

## 21 大阪薬大だより

## 22 大阪医大の現場力

vol.13 感染対策室

## 病院ボランティア

## 23 水彩画と私

## 24 ホームページのご紹介 研究編

[写真] 病院新本館の完成予想図

# 医学教育のこれから



大槻学長

医療の未来に向けて大阪医科大学は、いま、どのような医療人を育成しようとしているのか。グローバル教育を中心に先進的な教育改革に取り組んでいる大槻勝紀学長と3人の担当教授にお話を聴きました。

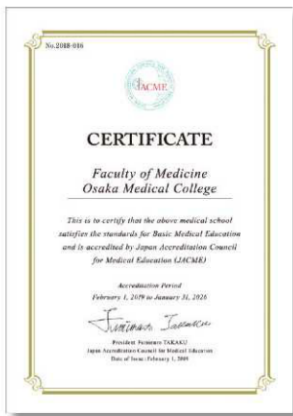
——今年の抱負から。

大阪医科大と大阪薬科大が統合し、看護系を含めた医療系総合大学として着実に足固めを進めていきます。統合から融合へ、1プラス1を2以上にしながらはなりません。科学研究費助成の取得額は、単科医科大としては全国2位です。薬学分野を含めて公的な外部資金を獲得し、2021年4月の完全統合を目指しています。世界的な医療系総合大学に育てていきたいですね。

グローバル化について単科大学は、多くの部局を抱えた総合大学に比べてどうしても取り組みが遅れがちでした。2040年には18歳人口が最も減少し、大学の生き残りが深刻化します。そのころの社会では隣をみれば外国人というのが普通になるので、これからは外国からの留学生を増やしていきたいと思います。

——私立大学医学部としては西日本でも古い歴史をもち、創立時には海外移民団への医師派遣という使命もありましたね。

そうですね。国際的な役割を果たすのは建学の精神に基づくものです。昨年、日本医学教育評価機構からグローバルスタンダードに適應した大学として



て認定され、それも認定された大学で3位と高い評価を受けました(写真II認定証)。

——海外との大学交流はいかがですか。

ハワイやアジアを中心に10大学と「学生交流に関する協定書」を締結し、国際交流を手がける「中山国際医学医療交流センター」の機能を強化しています。単に学生に留学の道を切り開くだけでなく、交流先大学との単位互換制度を導入し、学生がキャリアとして実績を残せるようにしていきます。

——2020年度に医学研究科修士課程設置を予定しています。

修士課程では文理融合や医工連携というニーズが高まり、各分野から社会人を含めて受け入れていきます。工学部など理系学部出身者や医療機関のスタッフのみなさんは手術の現場を見る機会はありません。社会の安心・安全の問題や保健、地域医療など現場をよ

く知っている行政関係者や多様な専門家といっしょに公衆衛生、自然災害などを考えていきます。将来的には世界各地の留学生も受け入れ、グローバルな課題の解決に取り組んでいきたいですね。

——健康長寿の延伸に向けた「たかつきモデル」は。

口腔内の細菌が糖尿病など様々な病気の要因になっていることが明らかになっています。大学としては医学と歯学の分野の壁を越えてゲノム解析などの共同研究を行う一方で、市民のみなさんにも口腔フレイル(咬む、嚥下、舌圧など)検査や認知機能測定などにも参加していただきます。高槻市内にあるサンスタールなどの企業が商品や試薬を開発し、高槻市も健康長寿について広報し、産官学が連携して取り組んでいます。地域に根差しながら世界を見つめる「グローバル」という見地から健康長寿に向けたモデル事業として世界に発信していきたい。

——世界への発信は大切ですね。

これまで大学内の改革に力を注いできましたが、グローバル化に向けて発信することの重要性を痛感しています。今年の4月には英語版のホームページを一新し、海外の学生や大学関係者にも積極的に発信して、国際感覚にあふれた医療人の育成を目指していきます。

## 世界で活躍できる医療人の育成

# 医学教育センターの取り組みから

医学教育センターでは、教育プログラム作成、学生の教育効果の測定、教員の能力向上、教育の評価など医学教育の企画を立て、実施しています。医学教育改革の現状と課題について語っていただきます。

——まず、基本的な方針から。

**中野隆史教授（微生物学）** 6年一貫の医学教育による、医療人としてのプロフェッショナルリズムの育成に取り組んでいます。医療倫理、研究心、医療人の心構えなどを含めてのことで、グローバル化に向けた国際交流を促進するための言語、文化教育も重視しています。基礎教育から研究段階まで「チュートリアル（少人数教育）」を導入して、学生たちが医学を学ぶにあたって直面する課題にも付き添いながら解決していくように努めています。



中野教授



梶本専門教授

**梶本宜永専門教授（医学教育センター）**

キーワードで言えば、従来の「見学型」から「参加型」の学びを重視し、学生に積極性を求めています。これまでは医師国家試験の合格を目指して知識の習得に追われるあまり、ごく一部ですがコミュニケーション能力に欠け、周囲とトラブルを起こす学生もいました。本学で学ぶからには知識、技能、態度の面で評価される医療人になつてほしいのです。そのために様々な事態に対応できるようにシミュレーション教育も実施しています。

**瀧谷公隆専門教授（医学教育センター）**

新カリキュラムでは臨床実習が44週から66週と大幅に増加しています。6年生は22週かけて外部の病院・医療施設で実習を重ねることになり、学外の病院などの協力体制が不可欠となります。海外の大学との単位互換制度を導入していくためにも国際的な基準に対応した臨床実習が求められています。

——言語教育については。

**中野** 英語学習については4年生までに医学英語を習得し、5、6年生には国際交流に取り組んでもらうようにしています。入学試験についても英語の「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を測る試験を何らかの形で採用するよう、現在検討しております。

——臨床教育は。

**瀧谷** 学内では附属病院全29科を44週かけて回ることになります。それも各医療現場で学生が主体となって、患者さんとかかわりの中から臨床を学ぶ診療参加型臨床実習を行います。医療チームの一員として指導医のもとで診療・検査・治療をしますので、患者さんの理解が必要となります。

**梶本** その教育評価をめぐっては教員から学生、学生から教員というフィードバックが大切です。学びの振り返りと教員連携を目指した「eポートフォリオ」という教育システムを実施し、臨床実習の改善を進めています。



瀧谷専門教授

——研究マインドや医療倫理などは。

**中野** 研究マインドを育てるために学生たちに一定の期間を与え、どっぷりと研究してもらおう工夫しています。3年生から研究室に所属し、実験計画を立てて実践し、4年生でプレゼンテーションをしてもらいます。

**梶本** 鉄は熱いうちに打て、というように学生の時に医療人としての態度を学ばなくてはなりません。そのために各科をまたがるコミュニティーに変わり、情報を共有しながら学習する姿勢を育てています。

**中野** 医療倫理もプロフェッショナル養成には欠かせません。1年生から演習やグループ討論などを通して養成します。

**瀧谷** 1年生から担任制があり、メンター（指導者）制も導入しています。5年生になると全員がメンターに師事し、6年生では約3分の1が1対1の手厚い指導を受けています。他の大学に比べ6年間で留年もせずにストリートで卒業する比率は高く、とてもきめ細かな指導を行っています。

**梶本** 運動系を含めクラブ活動が活発なせいか、上下関係がとて円滑に機能しています。

**中野** 仏作つて魂入れず、ではどうしようもありません。若く、柔軟な知性にこれからの魂を入れていくにかかっています。

# 古代から未来まで—解剖学の先端に立つ



研究室訪問

今号では解剖学教室の近藤教授を訪問しました。  
[www.osaka-med.ac.jp/class/an1.html](http://www.osaka-med.ac.jp/class/an1.html)

解剖学教室  
 教授 近藤 洋一

解剖学は「古くて新しい学問」と言われることがあります——解剖学教室の近藤洋一教授はそう話します。古代エジプトのパピルスにも解剖の記述があります。そして「発生学も解剖の重要な一分野で、最先端のiPS細胞も根本は解剖学にあるんです」とも。基礎研究に取り組んできた近藤教授の原点は、少年のころ手にした顕微鏡。「医学の研究をしたい」「治療につながる基礎研究をしたい」という強い思いを持ち続けてきました。

——医学部を志したのはいつころでしょうか。

近藤 両親によると、小学生のころには周囲に「医学部に行く」と言っていたようです。2年生の時に顕微鏡を買ってもらい、喜んでいろいろ観察しました。今も研究に顕微鏡は欠かせず、相変わらず顕微鏡をのぞいています。6年生のころ、がん細胞について書かれた本を読んで、「医学部で研究しよう」と本格的に思うようになりました。

——そして、念願の医学部へ。

近藤 出身の愛媛県に近い岡山大学に入学しました。ただ「基礎研究をしたい」という思いを持ちながらも、「どんな分野に進もうか」と迷いながら過ごしました。

——模索の時期ですね。

近藤 迷うばかりであり勉強はせず、部活動ばかりしていました。ギターマンドリンクラブでギターを弾いたり、指揮をしたりもしました。そしてオートバイも。1000ccの大型バイクで各地を走り回っていました。「医学とは」というそもそも論に迷い、「医学全般を修めよう」と内科に進みました。興味があったのは免疫分野でした。

——研究生生活が本格的に始まったのは？

近藤 3年間の研修を終えて岡山大の大学院に入ってからです。「分子細胞医学研究施設」の神経情報学部門に進みました。脳の中で「免疫」の仕事もしている「グリア細胞」を研究しようと考えました。

——海外での研究経験も豊富ですね。

近藤 岡山大で2年間の助手生活を経て米国に渡りました。ハーバード、ウイコンシン、ロチェスターの3大学で合わせて15年ほど、主にグリア細胞の研究を続けました。この間にグリア細胞の中のオリゴデンドロサイトへと研究対象は移っていきました。中枢神経系で軸索と呼ばれる神経線維を被覆して守る髄鞘の形成にかかわっているのがオリゴデンドロサイト。髄鞘が損なわれてしまう難病である「白質ジストロフィー」や「多発性硬化症」の研究に取り組みました。余談ですが、42



■近藤 洋一 教授（解剖学教室）略歴

平成 元年 岡山大学医学部卒業  
岡山大学医学部附属病院第三内科入局  
7年 岡山大学大学院医学研究科脳代謝学修了  
4年 岡山大学医学部附属病院研修登録医  
7年 岡山大学医学部分子細胞医学研究施設神経情報学部門研究員  
10年 ハーバード大学医学部・プリガムアンドウィメンズ病院  
13年 ウィスコンシン大学マディソン校  
23年 ロチェスター大学メディカルセンター  
26年 岡山大学大学院歯薬学総合研究科細胞組織学分野准教授  
28年 大阪医科大学解剖学教室教授

歳で死去した英国の天才チェリスト、ジャクリーヌ・デュ・プレの命を奪ったのが多発性硬化症です。

——現在力を入れて研究している疾患は？

近藤 「白質ジストロフィー」です。白質ジストロフィーは数十種類ある遺伝性白質疾患の総称です。髄鞘が生まれつきできなかつたり、いったんできたのに壊れたりする主に小児の難病で、運動障害や精神発達障害などが進行します。日本を含め世界中でみられますが、それぞれの患者数は少なく、例えば日本で10例とか多くて2百例とかいったところなんです。その一つの「クラッペ病」の研究を続けてきました。iPS細胞から作ったオリゴデンドロサイトの前駆細胞を移植する手法に取り組んでいます。骨髄移植などと組み

合わせることによって、動物モデルでは効果が確認されるようになってきました。

——「貫して研究を続けてこられた原動力はどこにありますか。」

近藤 なぜ科学者になったかと思われれば、一番は好奇心だと思います。医学部にいる以上「人の役に立ちたい」「患者さんを治したい」という信念も大切です。基礎研究によって10年後、20年後に効果が出る治療法や薬につながれば意義があると考えています。また、製薬会社が手を出しにくい希少難病は、大学の研究者が基礎研究でやるべきです。今後もぶれずに続けていきたいですね。

——解剖学が「古くて新しい学問」とは？

近藤 一般に解剖学というと肉眼で人体の器官を切り分け、分類していく学問が思い浮かぶと思いますが、それだけではありません。

日本に帰国後、2年間、岡山大で解剖学の一分野である細胞組織学の准教授となりました。組織学は顕微鏡を使った解剖学です。そのほか中枢神経系の構造を探索するのも解剖学の仕事です。そして、発生学も解剖学の重要な一分野です。細胞がどう分化して体を形づくるかを問う学問なので、iPS細胞などを使う再生医学も根源は発生学なんです。「解剖学は古代エジプトやヒポクラテスの時代に始まり、現在の最先端の知識まで包含している」という言い方をする研究者もおられますね。

——座右の銘を教えてください。

近藤 「諦めなければなんとかなる」——。「なんとかなる」というのは必ずしも「願いがかなう」という意味ではありません。諦めずに努力を続けていけば、結果はどうあれ納得し、受け入れられるという意味です。長い研究生活でいつしかそんな考えを持つようになりました。

——読書の大切さを感じることも多いとか。

近藤 学生さんに言いたいのは、人生について書かれた文学作品を若いうちに読んでくださいということ。医者は



現場でいろいろな人生を過ごしてきた患者さんと対面します。文学作品に触れて、世の中の幅広い「人生」を体験していれば、相手に寄り添うことができます。高校の先生がそんなふうにおっしゃったのが、心に残っています。ただ、私自身はあまり読めておらず、振り返って人生最大の反省点です。時間のある学生時代に、ぜひ文学作品を手にとってください。

——学生へのメッセージを。

近藤 私の学生時代は部活動に夢中で、自由な時間を過ごしましたが、今は「一生懸命勉強を」と言いたいですね。昔は医師免許を取って研修に出ながらがスタートという雰囲気でした。でも今は卒業したらすでに一人前の医者、というのが社会の要請です。在学時に一生懸命勉強し、そしてこつこつでもいいので勉強を続けてください。自分のことを棚に上げて申し訳ないですが。

## 黒岩敏彦教授が齋藤眞賞を受賞



(脳神経外科学教室 講師 池田直廉)

脳神経外科学教室の黒岩敏彦教授が齋藤眞賞(学術賞)を受賞しました。仙台で平成30年10月11日に開催された第77回日本脳神経外科学会学術総会で、新井一・日本脳神経外科学会理事長より賞を授与されました。

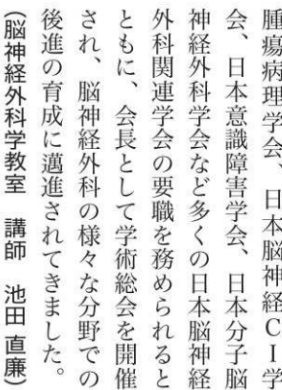
同賞は脳神経外科医療の学術的発展向上に顕著な功績があり、今後の展望にも大いなる期待がかけられる研究者に与えられる賞です。

黒岩教授は脳腫瘍に対する集学的治療をライフワークにし、脳腫瘍の術中光線力学診断を目的として、可視蛍光や近赤外光を観察可能な顕微鏡システムを世界で初めて開発しました。

当教室では教授の指導のもと、悪性脳腫瘍に対する光線力学的診断及び治療、ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)に関する研究を継続的に進め、本領域で世界をリードする先進的な研究を多数論文文化しています。

黒岩教授は、BNCT医療の拠点となる関西BNCT共同医療センターの開設にも尽力し、これまでに脳神経外科関連学会や学術総会の会長を務めました。これらの功績が受賞につながったと思います。

## 黒岩敏彦教授、医学教育功労者にも



(脳神経外科学教室 講師 池田直廉)

脳神経外科学教室の黒岩敏彦教授が大坂府医師会医学教育功労者として表彰されました。平成30年11月3日に表彰式が行われ、茂松茂人大阪府医師会会長から表彰状が授与されました。

医学教育功労者は、長年にわたる医学教育への多大な功労に対して表彰されます。黒岩教授は日本脳神経外科学会の卒前卒後教育検討委員会委員長、全国医学部長病院長会議の医学教育委員として医師養成のグランドデザイン検証ワーキンググループの座長を歴任しました。

医学教育においては新研修医制度の充足や専門医制度の再考など様々な転換点があり、黒岩教授は時代に即した卒前卒後教育の在り方を模索し、改革に尽力しました。

また、日本脳神経外科救急学会や日本脳神経外科光線力学学会の理事長、日本脳腫瘍の外科学会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経C I学会、日本意識障害学会、日本分子脳神経外科学会など多くの日本脳神経外科関連学会の要職を務められるとともに、会長として学術総会を開催され、脳神経外科の様々な分野での後進の育成に邁進されてきました。

## ICNCTで最優秀ポスター賞に



(関西BNCT共同医療センター 副技師長 秋田和彦)

BNCTの国際学会である18th International Congress on Neutron Capture Therapy (ICNCT)が、平成30年10月28日から11月2日まで台湾にて開催されました。今回発表した2演題のうち、演題名「Evaluation of neutron measurement system utilizing a LiCAF scintillator-optical fiber detector」が「Best poster presentation award」を受賞しました。

本発表では、共同研究により開発したLiCAFシンチレータ検出器を用いて中性子の測定を行い、従来法と比較しました。従来法ではリアルタイム測定はできず、測定結果を得るまでには相当な時間を要しましたが、今回開発した測定器により簡便、正確にリアルタイム測定を行うことが可能となります。

この受賞を励みに、今後も医学物理的・放射線技術的側面からBNCTの発展に貢献してまいります。

## 高槻市と認知症対策で人材育成協定を締結



(学務部)

本学は平成30年10月24日、高槻市と「認知症に関わる多職種連携の人材育成のための教育・研修プラットフォームの形成」に関する協定を締結しました。同日、高槻市役所市長室において、大槻勝紀市長と濱田剛史高槻市長による協定書調印式が行なわれました。

本学は特定機能病院として高度急性期医療を提供し、地域包括ケアシステムや認知症高齢者支援策を展開しています。教育・研究機関としては認知症対策についての情報発信や新たな知見の提供、地域医療者の育成を行っています。

今後その経験を生かし、地域包括ケアシステムの中で、認知症高齢者に関わる専門職の人材育成のための教育・研修プラットフォームを形成し、医療・介護・福祉専門職として活動・活躍している人材の能力開発を行うてまいります。



## Hans-Peter de Ruiter 教授来訪

ミネソタ州立大学マンケート校のHans-Peter de Ruiter教授が、平成30年11月5〜8日に来訪されました。学生派遣や教員間の研究協力について話し合ったほか、2回の講演をしていただきました。看護学部生を対象とした

「Roles of Nurses in the US and the Benefits of Partnering with International Students」では、学生たちはde Ruiter教授の講演に高い関心を示し、活発な質疑応答がなされました。教員・大学院生・附属病院看護師を対象としたFD講演会「The Ethics of Gerontechnology (Technology for the Aging and Elderly): New perspectives on nursing ethics education」はその後の懇親会ではde Ruiter教授と教員・看護師が教育や実践、研究について熱く語り合い、実りある情報交換がなされました。

看護学部は25年度より台北医学大学と国際交流を行っています。国際交流の拡大を目指して、マンケート校の看護学部と交渉を進めています。今後さらに研修プログラム等を検討し、31年度からマンケート校への学生派遣を開始したいと考えています。

(看護学実践研究センター)

センター長 鈴木久美



## 「市民の健康・食育フェア」出展

高槻市と高槻市健康づくり推進協議会主催のイベント「2018市民の健康・食育フェア」が、平成30年9月2日に高槻現代劇場で開催されました。

本学は口腔外科学教室が中心となり、研究紹介と健康調査のブースを出展しました。高槻市民に向けて口腔健康調査を実施し、研究ブランディング事業「健康寿命をのばすたかつきモデル」をアピールしました。

会場には、朝10時の開場と同時に多数の家族連れが来場しました。本学ブースは調査に協力していただける方でいっぱいになり、準備した唾液採集キットを全て使い、目標サンプル数を確保できました。

運営の高槻市社会福祉事業団の発表によると来場者は約2500人で、改めて高槻市の大きなイベントであることを認識しました。来年も参加して研究ブランディング事業の啓発を行い、3年目の成果報告へつなげたいと考えています。

(研究推進課)



## 「インターバル速歩」講演会を開催

信州大学学術研究院医学系・能勢博特任教授を講師にお招きし、「インターバル速歩講演会」を平成30年10月2日に開催しました。

当日の来場者は234名を数え、臨床第1講堂は満員で臨床第2講堂も使った講演会となりました。

講演ではインターバル速歩開発の経緯や、これまでの取り組みと研究成果、今後の展望について非常に分かりやすくご説明いただきました。時折ユーモアを交え、会場から歓声と笑い声が起る中、あつという間に講演の1時間が過ぎました。

その後、衛生学・公衆衛生学教室の神谷訓康講師(准)から、

インターバル速歩事業への参加申し込み方法等を説明しました。最後は本事業の責任者である同教室の玉置淳子教授から、研究へのご理解・ご協力をお願いと来場のお礼を申し上げます。

講演会の反響は非常に大きく、市民のみならず関心が高いことを再認識しました。今後もみなさまとの接点を大事にし、研究ブランディング事業を推進してまいります。

(研究推進課)



## 看護学部「カムカムサロン」オープン

研究ブランディング事業の一環として、カムカムサロンが平成30年10月9日にオープンしました。

看護学部第2講義室で参加者11名が筋力の測定や口腔内細菌のチェック、噛む力の測定などを行い、道重文字看護学部長が健康アドバイスや口腔内をきれいに保つ大事さ、口腔内細菌叢と疾患の関係について分かりやすく話しました。スタッフも一緒に健康体操を行い、和やかな雰囲気です。

参加者からは「とても楽しかった」「近所の友達にも伝える」「公民館等にチラシを置けばもっと広まる」など、うれしい感想が寄せられました。

カムカムサロンは、毎週火曜日の午後1時半から3時半まで開室しています。高槻市民のみならず健康で生き生きとした生活を送れるよう、これからも情報を提供したいと思えます。

(研究推進課)



## 健康たかつき21シンポジウムにブース出展

「健康たかつき21第15回シンポジウム活動展示会」が、高槻市立生涯学習センターの展示ホールで平成30年10月25日に開催されました。本学は今回初めてブースを出展し、口腔外科学教室の教員が口腔内細菌叢研究について説明しました。

多数の市民が来場し、本学のブースにも咬合力と舌圧チェックを試したいと多くの方が来られ、3時間の展示で125名の方にお越しいただきました。

高槻市のゆるキャラ「はにたん」も、咬合力チェックを実施し、本学が推進する研究のアピールに一役買ってくれました。

高槻市民のみならず、口腔健康の大切さや研究プラン、デザイン事業「たかつきモデル」を知っていただく有意義な場となりました。来年も参加して本学の研究活動を更にアピールしたいと考えています。



(研究推進課)

## 第7回FD&SD「教育・研究集会」開催

第7回FD&SD「教育・研究集会」を、臨床第1講堂において平成30年10月31日に開催しました。当集会には学生・教職員226名が参加し、本年度学長行動目標として、「大学統合(大阪医科大学・大阪薬科大学)の検討内容」及び「国際化の具体的な内容」について説明をしました。

その後、教育活動の各責任者から「国試対策の現状」、「入試実施の現状」、「IR室の設置と役割」等について、研究活動の各責任者からは「競争的資金の獲得状況」、「TR部門の活動状況」、「医療統計室の現状」等について説明をしました。

参加者からは「大学の最新の動向が把握できて大変よかった」、「各部門の説明時間が短いように思います。もう少し時間があってもよいと思います」などのコメントが多数寄せられ、本集会の主催者として今後の継続的な活動への責任を感じています。

これからも、積極的な教学改革、一体感ある大学運営を進めてまいりますので、引き続き皆様方の更なるご協力をお願い申し上げます。

(学長 大槻勝紀)

## 「第1回臨床研究教育研修会」開催

平成30年度第1回臨床研究教育研修会(参加者264名)を平成30年9月14日に開催しました。吉田雅幸・東京医科歯科大学生命倫理研究センター長を講師にお招きし、「臨床研究法・医学系指針とこれからの医学研究」に関して講演をしていただきました。

特定臨床研究と従来の臨床研究の違いや、特定臨床研究で求められる研究者の責務、利益相反管理、ゲノム解析研究の研究と診療の接点、バイオバンクの現状と課題など、幅広い話題を分かりやすく解説してくださいました。

講演後は研究者が日々頭を悩ませている事例に対し丁寧にアドバイスをしていたいただき、実り多い研修会となりました。

(研究倫理委員会・病院倫理委員会・臨床研究センター)



## 平成30年度秋季学術講演会

平成30年度秋季学術講演会が平成30年11月14日、臨床第1講堂において開催されました。大槻勝紀学長の挨拶の後、特別講演が行われました。

○特別講演

「社会が健康・疾病に与える影響

— How does society get into the skin? —

社会・行動科学教室

教授 本庄かおり



「専門英語教育におけるコーパス言語学の貢献」

語学教室

教授 藤枝美穂



「パーキンソン病の病態解明と治療法の進歩」

内科学IV教室

教授 荒若繁樹



(大阪医科大学医学会)

## 平成30年度年賀交歓会

歴史資料館大学院多目的講義室において、年賀交歓会を1月4日午後1時に開催しました。役員及び名譽教授をはじめ多数の教職員が参加しました。

最初に植木實理事長から年頭の挨拶があり、法人が進める多くの事業や課題等について述べられた後、本年のスローガン「Society5.0の浸透・実践」のもと、超スマート教育・研究・医療へとゆつくり大きく舵を取るこ



とが示され、各学校・病院にはその実践を、教職員にはSSDによる「治療／教育的自我」への到達を強く希望する旨の言葉がありました。

続いて、濱岡純治理事長補佐・副理事長から新役職就任の挨拶と「大阪薬科大学の運営」、「財政黒字の維持」、「大学統合の推進」について、また佐野浩一副理事長から新役職就任の挨拶と創立100周年記念事業「病院新本館建築」、「三島救命救急センター移設」、「三島南病院の建て替え構想」について話がありました。

最後に、大槻勝紀学長が「大学基準協会の機関別認証評価受審」、「大学統合協力」、「外国人留学生の確保」について述べられ、乾杯の後、会場

で年賀交歓が行われました。

(総務部総務課)

## 「多職種連携教育とシミュレーション教育法」講演会

「多職種連携とシミュレーション教育法」に関する第4回講演会(平成30年9月21日)と第5回講演会(同11月13日)を開催しました。

第4回では、浜松医科大学臨床医学教育講座・五十嵐寛特任教授に「多職種連携教育に対する医学教育的知見」に関する総論をお話しいただきました。内容は、成人教育原理からアウトカム基盤型教育におけるシミュレーションの意義など示唆に富むものでした。

第5回は、岐阜大学医学教育開発研究センター・今福輪太郎講師に「多職種連携教育に対する教育的アプローチ」に関する総論をお話しいただきました。社会学、教育学の観点から多職種連携教育について話される今福先生のご講演は非常に意義深いものでした。

この講演会は、平成30年度の大阪医科大学研究拠点育成奨励助成金事業「シミュレーション環境を活用した多職種連携教育システムの構築」医看薬融合教育を中心とした一環として行いました。

本学が多職種連携教育の面においても全国をリードできるように今後とも講演会の継続開催をしていきたいと思ひます。

(医学教育センター 講師(准)・

医療技能シミュレーション室

副室長 駒澤伸泰)



## 「周術期危機管理セミナー災害対策実践編」開催

手術室災害実践対策における多職種連携教育の一つとして、麻酔科医と手術室・ICU看護師合同で「第13回周術期危機管理セミナー災害対策実践編」を平成30年12月1日に行いました。

今回は、大阪北部地震に対する各病院の周術期管理の振り返りと課題抽出を行いました。本院だけではなく、市立ひらかた病院、北摂総合病院、第一東和会病院、松下記念病院からも手術室看護師、麻酔科医が46名参加しました。

最初に、救急医学教室・リハビリテーション医学教室の富岡正雄准教授が講義を行いました。次に、それぞれの病院での周術期感染対策の現状と課題について発表と討議を行い、患者安全や多職種連携について協議しました。

患者予後向上の観点からも、多職種連携により周術期災害対策を向上させる試みを今後も継続していきたいと思ひます。

(医学教育センター 講師(准)・

医療技能シミュレーション室

副室長 駒澤伸泰)



## 平成30年度解剖慰霊祭

高槻現代劇場大ホールにおいて、平成30年10月20日午後2時から解剖慰霊祭を執り行いました。

学長代行として小野富三入学長補佐から医学教育の発展に貢献、寄与していただいた方々への謝意と哀悼の意が捧げられました。導師による読経、解剖学教室の近藤洋一教授、医学部生及び看護学部生代表による祭文奉読を行った後、ご遺族代表、来賓の行政・医療機関関係者、本学関係者、医学部・看護学部生等参列者全員が、今日まで系統解剖、病理解剖で医学教育のために献身いただきました御霊に深謝の意を込めて、焼香を行いました。

毎年10月第3土曜日に解剖慰霊祭を行います。学生及び教職員の参列をお願いします。



(総務部総務課)

## 平成30年度実験動物慰霊祭



(総務部総務課)

実験動物慰霊祭が、平成30年12月1日午後1時より講義実習棟学1講堂にて行われました。  
 根本慎太郎実験動物部門長による祭文奉読の後、林秀行図書館長、近藤洋一動物実験委員会委員長、根本部門長による代表焼香を行いました。その後、約40名の参列者全員が焼香を行い、医学・医療の発展と研究に貢献、寄与した多数の実験動物の御霊に謹んで感謝と敬意を表し、冥福を祈りました。  
 実験動物慰霊祭は、毎年12月第1土曜日に行っております。学生及び教職員は参列し、動物たちの命に感謝の祈りを捧げていただければと思います。

## 平成30年度大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰(藤田賞)の表彰



(病院事務部庶務課)

平成30年度の大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰(藤田賞)の受賞者が、麻酔科・ペインクリニックの駒澤伸泰医員に決定し、2月6日の診療科長会にて授賞式が行われました。  
 診療科長会にご出席の方々からの祝福の中、駒澤医員に表彰状と金一封が授与されました。  
 この賞は、本院において診療並びに臨床教育に著しい功績のあつた若手医師を顕彰するものです。  
 次年度の顕彰については、本年の秋頃に募集を予定しております。

## ベストティーチャー賞授賞式

ベストティーチャー賞(平成29年度)授賞式が、平成30年12月5日、特別応接室において開催されました。  
 授業内容や方法の改善に取り組み、学生による授業評価において高い評価を得られ、本学に多大な貢献をした12名の教員に、大槻勝紀学長から表彰状が授与されました。  
 受賞者を代表して、看護学研究科・泊祐子教授から「今回の賞を励みにし、より質の高い教育の実践を目指します」との感謝の言葉がありました。



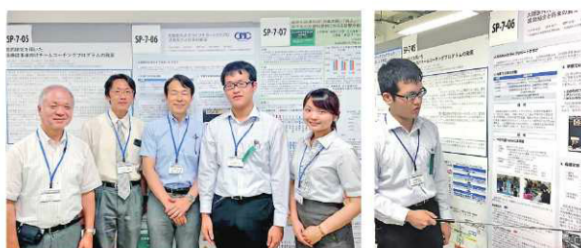
- 受賞者一覧
- 医学部
    - 化学 教授 林秀行
    - 生化学 講師 境晶子
    - 臨床研究センター 助教 福井健二
    - 内科学I 准教授 藤阪保仁
    - 周産期センター 助教 佐野寛行
    - 看護学部
      - 基礎看護学 准教授 荻原享
      - 母性看護学・助産学 准教授 土肥美子
      - 精神看護学 講師 竹明美
      - 公衆衛生看護学 准教授 瓜崎貴雄
      - 看護学研究科
        - 慢性期成人看護学 准教授 草野恵美子
        - 小児看護学 准教授 カルデナス 暁東

(学務部)

## LSCが日本医学教育学会で発表

東京医科歯科大学で、平成30年8月3〜4日に開催された第50回日本医学教育学会大会にて、ライフサポートクラブ(LSC)が「大阪医科大学ライフサポートクラブの活動紹介と将来の展望」と題して発表を行いました。  
 昨年度の主な活動である一般市民に向けたAED講習会や学園祭を通じた一次救命処置(BLS)の普及、看護実習直前勉強会について、より客観的に評価して気付いた事を共有する目的で発表しました。会場からは多数の貴重な意見を頂き、大変勉強になりました。

今回の経験を生かし、今後更に部活動を充実させ、発信力を高めていきたいと思います。LSCでは医学部生・看護学部生を中心に、BLSの訓練及び地域住民の方々へのBLSの啓発活動を行っています。是非一度、活動に参加してみてください。



- (医学部5年生 ライフサポートクラブ前主将 佐々木彰紀  
 看護学部 教授 津田泰宏)

## 平成30年度(第12回)伊藤奨学基金授与式

平成30年度(第12回)伊藤奨学基金授与式が、平成30年10月11日に開催されました。

初めに伊藤奨学基金運営委員長である大槻勝紀学長から、本基金の原資を遺贈された伊藤龍三先生と本基金設立の経緯について話があり、受給者には今後も良き医療人を目指し、学業に精進してほしいとの激励と祝辞がありました。

その後、受給者3名それぞれに大槻学長より賞状と目録が手渡されました。賞状と目録を受け取った受給者は少し緊張した面持ちで、奨学基金受給への謝辞と今後の決意を表明しました。

最後は学長と受給者、当日出席の伊藤奨学基金運営委員全員で記念撮影を行い、和やかな雰囲気での授与式となりました。

平成30年度 伊藤奨学基金受給者

2年生 任 聿輝

5年生 河原崎 温奈

6年生 鈴木 宏幸



(学務部)

## 小野奨学会奨学生の優秀者表彰

小野奨学会奨学生課外活動優秀者(平成29年度)として、医学部5年生の川上明沙美さんが表彰されました。

川上さんは、タイ・マヒドン大学シリラート病院で行われた第6回微生物・免疫学・寄生虫国際大会(SIMPIC)に本学代表チームとして参加し、日本の大学として初めて決勝トーナメントに進出した功績が認められ、受賞に至りました。

平成30年10月2日にANAクラウンプラザホテル大阪において表彰式が開催され、公益財団法人小野奨学会の久保井一匡理事長より賞状と副賞が授与されました。

川上さんは喜びを述べるとともに、今後、社会に貢献できる医師になる決意を新たにしています。



(学務部)

## CHALLENGEをテーマに学園祭

本年度の学園祭は「CHALLENGE」をテーマに平成30年10月27日、さわらぎキャンパスで開催されました。

俳優の吉沢亮によるトークショーがツイッターで話題となり、2500人を超える来場者が同キャンパスグラウンドの野外特設ステージ前を埋め尽くし、大槻勝紀学長、道重文子看護学部長の開会の挨拶でスタートしました。

プリキュアショー、空手部演武、ダンス部発表と続き、吉沢亮のトークショーは、9割は女性という来場者の歓声に包まれ大いに盛り上がりました。その後も軽音楽部の演奏、学生イベント、よしもお笑いライブ、抽選会などで賑わいました。

例年の約5倍の来場者を迎え、模擬店の売り上げは上々で、グラウンドでの大阪府赤十字血液センターの献血にも昨年の倍近くの協力があり、目標の100人をクリアしました。



(学務部)

## 学生の避難訓練実施

本学では、秋の火災予防運動の時期に合わせて学生の避難訓練を毎年実施しています。今年度は平成30年10月25日に医学部1、2年生、29日に看護学部1年生の学生を対象にそれぞれ訓練を行いました。

大地震発生後、それに伴う火災が発生したという想定のもと、両学部の学生とも教職員の指示に従い、避難、集合、点呼にいたるまでの一連の行動を適切かつ迅速に行うことができました。

避難訓練に引き続き、1年生は消火訓練を行いました。学生が積極的に参加し、全員が消火器を使用した消火訓練を体験しました。

学生が積極的に訓練に取り組んだ背景には、昨年6月18日に発生した大阪北部地震により、例年にも増して学生の間に防災意識が高まったからだと思われまます。

今回は、ユニバーサル・パスポート(WEB学生支援サービスシステム)を用いた安否確認テストも実施しました。

訓練終了後、教職員、学生から寄せられた意見や反省点をもとに、来年度の訓練に生かしてまいります。



(学務部・大学安全対策室)

## 平成30年度名誉・功労教授懇談会

平成30年度名誉・功労教授懇談会は、河野公一名誉教授に懇談会世話人をご快諾いただき、平成30年11月17日にホテル阪急インターナショナルのマルメゾンにおいて、13名（名誉教授11名、功労教授2名）ご出席のもと開催されました。

記念集合写真を撮影後開会され、近況報告等があり、昼食の後もゆっくりご歓談されました。



(総務部総務課)

## 外来ホールで院内コンサート

大阪医科大学病院外来ホールにおいて、毎年恒例の「院内コンサート」を平成30年10月27日午後2時から開催しました。

医学部と看護学部の学生で編成された管弦楽部とグリー部による演奏と合唱に続き、星賀正明専門教授夫妻がピアノ連弾で多様なジャンルの曲を巧みなタッチでリズムカルに演奏し、浮村聡専門教授は男声二重唱を披露しました。最後は、会場内の皆さんと一緒に「ふるさと」を大合唱し、終了しました。

美しく奏でられる楽器や合唱の響きは、生演奏ならではの臨場感で、会場内の皆さんは素敵なお時間を楽しまれました。



(病院事務部庶務課)

## 平成30年度市民公開講座 開催報告

### ●第4回市民公開講座

平成30年11月17日

新講義実習棟 P101教室

○話題てんこ盛りの放射線治療

放射線医学教室

講師(准) 新保 大樹

○造影検査を受ける時に知っておきたいお薬のこと

病院薬剤部

樋口 沙織

○少しでも楽に受ける放射線治療

病院看護部

後藤 純子

当日は、68名の方にご来場いただきました。



新保講師(准)



荒若教授

### ●第5回市民公開講座

平成30年12月15日

新講義実習棟 P101教室

○パーキンソン病の診断と新しい治療法

内科学IV教室 教授 荒若 繁樹

○深く知ろうパーキンソン病のお薬

病院薬剤部 深松 真衣

○パーキンソン病との上手なおつき合い

病院看護部

慢性疾患看護専門看護師 井上 智恵

当日は、172名の方にご来場いただきました。

(総務部総務課)

## 計報

平成30年9月18日、名誉教授の谷川允彦先生が満75歳でご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。



## 就任のご挨拶

2018年12月1日付で理事長補佐・副理事長に就任しました。私は16年4月の学校法人大阪医科大学と学校法人大阪薬科大学との法人合併以来、副理事長として主に大阪薬科大学の運営と法人財務を担当してきました。

私は引き続き大阪薬科大学の運営、法人財務を担当することに加えて、新たに大学統合の推進を担当することとなりました。大学統合につきましては、法人合併基本合意時から次のステップと位置付けていましたが、18年11月24日の理事会、評議員会で21年4月の大学統合に向けて準備を進めることが承認されました。

今般、病院新本館の建築や三島救命救急センターの移設、関西BNC共同医療センター事業の立ち上げ、大学統合の推進、医師の働き方改革への対応など本法人の取り組むべき課題が山積する中で、副理事長を1名増員し、理事長の補佐体制を強化することにいたしました。



理事長補佐・  
副理事長  
濱岡 純治

### 【略歴】

- 1974年 京都大学経済学部卒業
- 1983年 米国デューク大学大学院修士課程(経済学)修了
- 1999年 日本生命保険相互会社 総合法人第七部長
- 2005年 田辺製薬株式会社 執行役員財務経理部長
- 2007年 田辺三菱製薬株式会社 取締役常務執行役員
- 2008年 学校法人大阪薬科大学 理事
- 2009年 田辺三菱製薬株式会社 常任監査役
- 2013年 学校法人大阪薬科大学 理事長
- 2016年 学校法人大阪医科大学 副理事長
- 2018年 学校法人大阪医科大学 理事長補佐・副理事長

この度、学校法人の副理事長を拝命いたしましたので誌面をお借りしてご挨拶申し上げます。

大阪医科大学創立100周年記念事業として病院新本館建築が進んでおります。本事業は、救命救急センターやBNC医療を含めたスーパースマートホスピタルを目指し、医療人の新しい働き方で、より一層良質な医療を実践することによってよき人材を育てようとするもので、アイデア募集や募金活動などを通して、職員のみならず多くの人々のご協力を得て行うこととなります。

また、この事業に並行あるいは引き続き実施する事業として、高槻高校のキャンパス整備や医大・薬大の統合を実質化するためのキャンパス統合準備、そして、三島南病院の建て替え準備などがあります。今後はこれらの事業を完遂するための基盤整備の時期で、このように重要なときに副理事長を拝命する責任を重く受け止め、皆様のご指導とご鞭撻をいただきながら、15年前、研究施設統

合や看護学部設置に臨んだときの初心に立ち返り、誠心誠意任務に励みますのでよろしくお願いたします。



副理事長  
佐野 浩一

### 【略歴】

- 1980年 大阪医科大学医学部卒業
- 1984年 大阪医科大学大学院修了  
大阪医科大学 助手
- 1985年 米国UCLA医学校 Fellow  
米国Harbor-UCLAメディカルセンター RF
- 1997年 大阪医科大学 教授
- 2005年 大阪医科大学 看護専門学校長
- 2010年 大阪医科大学 歴史資料館館長
- 2012年 学校法人大阪医科大学 常務理事
- 2018年 大阪医科大学 名誉教授  
学校法人大阪医科大学 副理事長

## ◆研究助成金の内定・採択について

(平成31年1月10日現在)

### 平成30年度研究助成 (一般財団法人 横山臨床薬理研究助成基金)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
工医薬集約によるmicroRNA創薬の実現と難治性乳がんの克服	谷口 高平 (TR部門・助教)	100万円

### 平成30年度プロジェクト研究 (脂溶性ビタミン総合研究委員会)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
脂溶性リガンドによる疾患制御(分担テーマ:胆汁うっ滞性肝疾患における新規レチノイドの作用機序の解明)	瀧谷 公隆 (医学教育センター・専門教授)	15万円

### 平成30年度(第43回)研究奨励金公益財団法人 (臨床薬理研究振興財団)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
DNA複製ストレスを利用したがんの合成致死誘導治療法の確立	小村 和正 (泌尿器科学教室・助教)	200万円

### 平成30年度(第43回)研究奨励金公益財団法人 (臨床薬理研究振興財団)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
癌神経浸潤を標的とした新規耳下腺癌治療薬の開発	森脇 一将 (薬理学教室・助教)	200万円

### 平成30年度 研究奨励金(研究助成) (公益財団法人 上原記念生命科学財団)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
DNA複製ストレスを利用したがんの合成致死誘導治療法の確立	小村 和正 (泌尿器科学教室・助教)	200万円

### 平成30年度 研究助成交付申請書 (山口内分分泌疾患研究財団)

研究等題目	氏名(所属名・職名)	助成金額
去勢抵抗性前立腺がんにおけるヒストン修飾とARトランスクリプトームの変遷解析	小村 和正 (泌尿器科学教室・助教)	100万円

○研究推進課から応募申請しました公募助成金等のうち、内定・採択を確認できたもの、及び研究者より直接内定・採択の情報提供のあったものを掲載しています。

# 「管理体制の構築」と「管理規程」を柱に

— 学校法人大阪医科薬科大学の安全保障輸出管理に向けた取り組み —

国際的な平和及び安全の維持を目的として、武器や軍事転用可能な貨物（装置、試料など）及び技術を、大量破壊兵器の開発等を行っている国やテロリストの手に渡ることを防ぐため、政府は安全保障輸出管理制度を実施しています。

日本の研究成果物が安全保障の観点から危惧のある国や組織に渡るのを防ぐため、政府は平成22年に「外国為替及び外国貿易法（外為法）」を改正し、貨物や技術の輸出を厳しく管理をすることとしました。これを受けて経済産業省は大学に対し、①トップ・マネジメントの意識の高揚、②体制整備と内部規程の策定、③ホームページ等を活用した意識啓発の実施を求めています。

本法人はこうした政府方針に基づき、実験機器や医療技術などの輸出に関する体制を整備し、4月1日から運用を始めます。

輸出管理の対象は貨物（実験機器、研究試料等）と技術です。大学など研究機関は、海外の大学等との共同研究の際に、研究に使う機器等を送付（輸出）することがあります。また外国人研究者や留学生（非居住者）に対して機微な技術を提供することがあります。そのような場合には、輸出する貨物や提供する技術が「リスト規制」に該当するかどうかの判定が必要になります。

## ■ 大学における貨物の輸出例

貨物輸出の機会	送付（輸出）の具体例
海外との共同研究等	<input type="checkbox"/> 実験用機器（CCD検出器、光電子増倍管等）や部品等 <input type="checkbox"/> 研究試料（DNAプラスミド、ウイルス等） <input type="checkbox"/> 研究室で合成（自作）した薬品等
海外での展示、競技会等の出展	<input type="checkbox"/> ロボットの輸出（例：ロボットコンテストに出展など）
JICAやNEDO等の技術支援事業	<input type="checkbox"/> 実験機器、器具、試薬等の送付
海外での考古学等の調査研究	<input type="checkbox"/> 観測機材（高感度カメラ等）の持ち出し

## ■ 大学における技術の提供例

技術提供の機会	技術提供の具体例
学会等での研究発表	<input type="checkbox"/> 国内外の国際会議・シンポジウムでの研究発表
留学生・外国人研究者の受け入れ	<input type="checkbox"/> 実験装置・分析装置・機器の使用 <input type="checkbox"/> 研究指導・技能指導（口頭も含む） <input type="checkbox"/> セミナー・打ち合わせ等での情報提供 <input type="checkbox"/> 電子メールやUSBによる技術情報提供
外国からの施設見学等	<input type="checkbox"/> 研究室の設備（実験装置）の見学 <input type="checkbox"/> 共通大型実験施設の見学 <input type="checkbox"/> 技術資料の提供
外国の企業・大学との共同研究	<input type="checkbox"/> 共同実験用装置・試料等の使用 <input type="checkbox"/> 技術情報を電子メールやUSB等で提供 <input type="checkbox"/> 公知でない技術情報の提供 <input type="checkbox"/> 外国人共同研究者の大学訪問の際に技術資料を提供

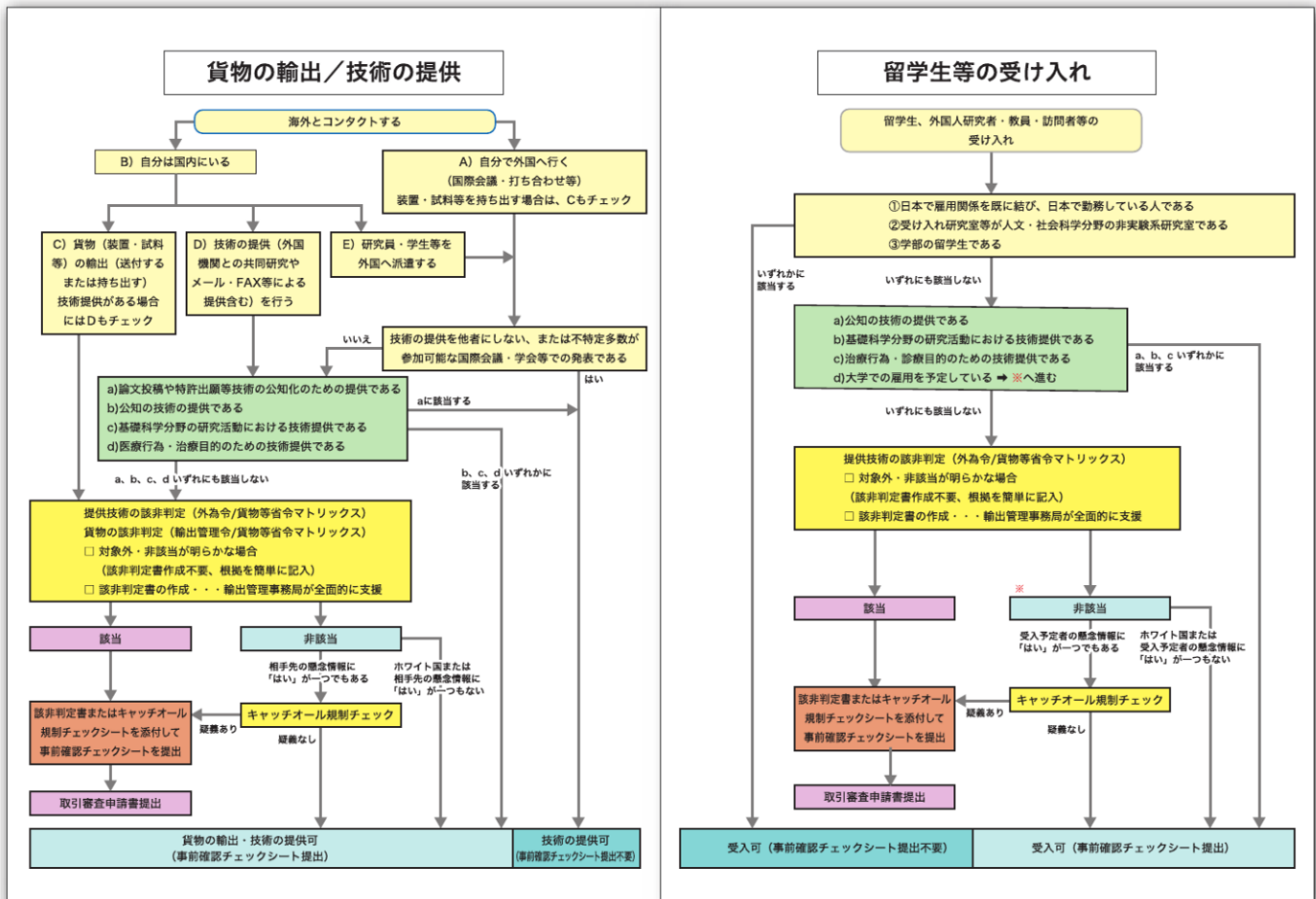


輸出する貨物や提供する技術がリスト規制に該当しない場合でも、相手先（国）・機関の確認や用途等の確認が必要になる場合があります（キャッチオール規制）。

法人監査室と大学安全対策室で安全保障輸出管理体制構築プロジェクトチームをつくり、「管理体制の構築」と「管理規程」を策定し、あわせて大阪医科大学、大阪薬科大学の両教授会と関係部署、職員への説明会を実施して、問題意識の共有を目指します。また本法人のホームページの危機管理サイトに関連情報を掲載することで意識高揚を図ります。

輸出管理体制の最高責任者は理事長で、大阪医大と大阪薬大の両学長が輸出管理統括責任者となります。留学生等の受け入れや貨物輸出等で輸出管理に関わる案件が発生した場合には、まず教員から該当する部門の担当者へ相談し、下のフローチャートを参考に事前確認を行ってください。

リスト規制	何を	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 送付する・・・貨物</li> <li>■ 持ち出す・・・貨物</li> <li>■ 提供する・・・技術</li> </ul>	貨物・・・輸出令 技術・・・外為令
	誰に	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ どの国</li> <li>■ どの機関／組織</li> <li>■ どんな人</li> </ul>	需要者要件
キャッチオール規制	何のために	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 目的</li> <li>■ 用途</li> </ul>	用途要件



研究推進課と大阪薬科大学臨床教育・研究支援課に4月から輸出管理事務局を設け、今後の実務を推進します。手続き等でご質問があればどんなことでもお訊ねください。

自由な教育・研究環境を確保し、安心してグローバルな活動ができるようしっかり支援したいと思います。

(研究推進課、臨床教育・研究支援課、法人監査室)

# 「大阪医科大学創立100周年記念事業募金」 ご協力のお願い

## ● 募金の募集要綱

- 募金名称** 大阪医科大学創立100周年記念事業募金  
—「大学病院新本館」建築—
- 募金の目的・使途** 寄付金は、大学病院新本館建築に係る資金の一部、並びに学生支援体制の充実を図ることを目的に募集します。
- 募金目標額** 10億円
- 募金期間** 2018年10月～2027年3月
- 寄付の種類** 現金、遺贈、現物寄付、相続財産  
\*現金以外のご寄付の方法については、募金推進本部にお問い合わせください。
- 金額** 個人は1口1万円、法人は1口10万円としておりますが、できるだけ複数口のご協力をお願いします。なお、法人からのご寄付の場合は、1口未満もありがたくお受けいたします。また、個人・法人いずれのご寄付の場合も、分割での寄付も可能ですのでお申し出ください。

## ● 特典について

### 1. 顕彰

個人5口以上、法人5口以上ご寄付いただいた方は、銘板にご芳名をしるし、未永くそのご厚志を顕彰させていただきます。

### 2. 無料健診券の進呈

個人10口以上、法人5口以上ご寄付いただいた方には、健康科学クリニックの人間ドック(基本コース)1回分の無料健診券を進呈させていただきます。

ただし、健康科学クリニックでの無料健診の特典は、個人の場合はご寄付いただいたご本人様に限り、また法人の場合は法人が指定される方1名様に限り対象です。

なお、個人、法人いずれの場合も、この特典の有効期間は、寄付申込日から1年以内とさせていただきます。

## ■ 大阪医科大学創立100周年記念事業募金へのご寄付（寄付金申込者）

平成30年10月1日から創立100周年記念事業募金をお願いをさせていただいております。平成30年10月1日から平成30年12月31日までの間の寄付金入金件数は210件、金額は33,235,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただきます。感謝の意を表します。

○植木 實 ○門田 雅人 ○岩井 一 ○赤澤 千春 ○鈴木 秀治 ○高須 朗 ○島田 眞久 ○木野 昌也 ○假野 隆司  
○藤田 一彦 ○佐々木 綾子 ○金山 萬里子 ○古川 哲夫 ○榎野 茂樹 ○福永 理己郎 ○吉田 久美子 ○福永 晶  
○北村 洋 ○辻 求 ○王 龍三 ○小笠原 博 ○江村 成就 ○楞田 眞弘 ○日下 孝明 ○真多 浩子 ○松江 努  
○鏡山 博行 ○辻本 稔 ○磯田 洋三 ○中尾 忠民 ○寺井 義人 ○辻坊 裕 ○桐山 邦徳 ○大野 博司  
○山岸 陸男 ○宮澤 健 ○榎林 勇 ○大隈 義彦 ○木村 文治 ○栗山 太一 ○斯波 徳高 ○浮村 聡 ○堤 治彦  
○小林 尚弥 ○福田 泰樹 ○藤田 博 ○服部 行昌 ○小嶋 融一 ○筏 恵子 ○泉野 智之 ○木村 正士  
○鏡 由里子 ○橋本 恵介 ○岡田 豊子 ○清原 達也 ○藤本 陽子 ○嘉村 智美 ○秋月 延夫 ○柴谷 昭治  
○八百 正浩 ○水嶋 泰之 ○中西 利一 ○濱岡 純治 ○藤岡 俊吾 ○内山 和久 ○圓實 達宏 ○西村 みどり  
○阿部 宗昭 ○岡田 直起 ○森 健一 ○松本 嘉弘 ○橋長 勉 ○稻田 増光 ○櫻井 謙次 ○河村 慧四郎  
○大東 清四 ○岡田 朋文 ○花房 俊昭 ○岸本 郁男 ○大槻 勝紀 ○出坂 秀雄 ○根亘 祐平 ○横山 幸子  
○白井 久也 ○松村 實 ○松村 健 ○岡村 一美 ○鬼武 一夫 ○大上 忠治 ○赤田 清澄 ○藤井 光久 ○村西 喬  
○中矢 善之 ○外山 智士 ○秦 八重子 ○久永 美智子 ○弟子丸 信代 ○小嶋 昭子 ○岡田 仁克 ○末澤 慶昭  
○井実 広正 ○奥村 正治 ○後藤 祥子 ○岩城 隆二 ○松本 加奈 ○浅井 明美 ○辻 誠司 ○河内 明 ○莊 恵美  
○新吉 信子 ○新吉 張作 ○新吉 健作 ○江口 博美 ○前田 尚利 ○高市 幸彦 ○小坂 峰雄 ○黒川 彰夫  
○佐野 浩一 ○日南 淳子 ○中山 サツキ ○池田 宗一郎 ○高田 直紀 ○生内 一夫 ○錦辺 恵美子 ○後藤 樹莉  
○株式会社クリアネット ○清水金物店 ○株式会社関西ローマテリアル ○株式会社三島コーポレーション  
○社会医療法人美杉会 ○大阪府済生会泉尾病院 ○サンユレック株式会社 ○株式会社塩梅  
○株式会社健康保険医療情報総合研究所 ○前川株式会社 ○医療法人財団医道会十条武田リハビリテーション病院  
○本山町立国保嶺北中央病院 ○社会医療法人山弘会上山病院 ○大阪回生病院 ○日機設備工事有限公司 ○公立神崎総合病院  
○茂松整形外科 ○医療法人社団優志会 ○社会医療法人景岳会南大阪病院 ○匿名 48件 (順不同、敬称略)

## 創立100周年記念募金の槻友会有志からのご寄付

高槻中学校・高等学校の歴史の中で、創立時に本学は同校に校地を提供するなど多大な貢献を果たし、今回のキャンパス全面整備も大阪医大の貢献なくして成し得なかったことから、



大阪医大創立100周年記念募金を高槻高校の同窓会である槻友会の皆様をお願いすることになり、槻友会役員のご理解を得て、その経緯を記した高槻高校校長工藤先生と槻友会沼野会長連名のお手紙を添えて、平成30年12月10日槻友会会員1万95名に募金趣意書をお送りいたしました。

同年12月14日、槻友会有志の松本嘉弘様(7期・前法人評議員)・橋長勉様(7期・前法人理事)・森健一様(11期・前法人監事)・櫻井謙次様(19期・現法人監事)・稲田増光様(19期・現法人評議員)が植木實理事長を訪問し、大阪医大創立100周年記念募金に加え、高槻高校のキャンパス整備へのご寄付を直接手渡されました。

母校の益々の発展を願い、開設者である学校法人大阪医科薬科大学に託されたご芳志は、それぞれの目的のために生かされることとなります。母校を思う皆様の志に心より感謝申し上げます。  
(副理事長 佐野 浩一)

### ■ 大阪医科大学基金へのご寄付 (寄付金申込者)

平成30年10月1日から平成30年12月31日までの間の寄付金入金件数は6件、金額は1,430,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成30年12月31日までの間の寄付金件数は866件、金額は103,234,200円です。

○松本 延男 ○河内 明 ○医療法人毅峰会吉田病院 ○匿名 1件 (順不同、敬称略)

※毎年継続したご寄付の申し込みは「大阪医科大学基金(通称・フレンズ基金)」で承っております。なにとぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

### ■ 教育環境整備事業募金へのご寄付 (寄付金申込者)

平成30年10月1日から平成30年12月31日までの間の寄付金入金件数は6件、金額は10,500,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成30年12月31日までの間の寄付金件数は19件、金額は39,500,000円です。

○東 崇明 ○織邊 敏也 ○匿名 4件 (順不同、敬称略)

### ■ 机募金へのご寄付 (寄付金申込者)

平成30年4月から机募金をあらためてお願いをさせていただいております。

平成30年10月1日から平成30年12月31日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は500,000円です。ここに寄付金申し込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

○磯田 洋三 ○山田 浩 ○村中医療器株式会社 (順不同、敬称略)

## ご寄付のお手続き方法

- 大阪医科大学のホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。  
●郵送先：〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号 ●FAX：072-684-6723

- 下記口座のいずれかにお振り込みをお願いいたします。

受取人口座名義はいずれも「大阪医科大学募金口」	
(1)振込先 三井住友銀行高槻支店 口座番号 普通預金 2161078	(2)振込先 ゆうちょ銀行 ①ゆうちょ銀行から振り込む場合 口座番号 00940-8-319151 ②ゆうちょ銀行以外の金融機関から振り込む場合 支店名 ○九九(ゼロキュウキュウ)店 口座番号 当座預金 0319151

※本学指定の振込用紙をご利用いただき三井住友銀行またはゆうちょ銀行・郵便局でお振り込みいただければ、振込手数料は無料となります。振込用紙は募金推進本部までご請求ください。

- ご入金のご確認ができ次第、領収書とお礼状に添えて税制優遇措置の書類をお送りいたします。

【ご相談・お問い合わせ先】 大阪医科大学 募金推進本部 担当：山田 TEL：072-684-7243 (直通)



## 「第6回科学の甲子園ジュニア全国大会」で特別賞受賞

中学2年生の生徒3名が平成30年12月7〜9日に、つくば国際会議場で開催された「第6回科学の甲子園ジュニア全国大会」に出場しました。

大阪府大会で第1位の本校と、第2位の大阪市立咲くやこの花中学校の合同で大阪府代表チームを組み、筆記競技・実技競技に取り組みました。

結果は47都道府県中、総合順位11位〜20位に入り、特別賞として、女子を3名以上含むチームのうち最高順位のチームに贈られる「帝人賞」を頂きました。



## 「2018年若手パブリックヘルス研究者京都国際会議」への参加

京都大学大学院医学研究科社会健康医学

系専攻主催で行われた「2018年若手パブリックヘルス研究者京都国際会議」に平成30年12月3日、参加しました。本校GAコースは今年度で4回目の参加となります。今回は高大連携を促進することから、同専攻長の中山健夫教授からの正式な招待に基づく参加となりました。



ポスター・プレゼンテーションでは、海外の研究者による英語での説明を聞き、英語で質問をして理解を深めました。その後スライドを用いた海外研究者3人による本格的なプレゼンテーションを見学しました。最後にスペシャル・プログラムとして、本校から工藤剛校長による学校紹介、高校2年生2名のNon-communicable Diseases（非感染性疾患）についての発表、高校2年生1名が1月12日に本校主催で行われる「グローバルヘルス高校生フォーラム」についての紹介の機会が与えられ、さらにディナーセッションにも参加させていただき、世界の一流の研究者の方と交流する貴重な経験を得ることができました。

## 「アジア高校生架け橋プロジェクト」来日留学生受け入れ

SGH指定校である本校は、「アジア高校生架け橋プロジェクト」（主催…文部科学省、実施…公益財団法人AFS日本協

会）で来日したタイとミャンマーからの留学生2名を、平成30年8月27日から半年間受け入れています。長期にわたる留学生の受け入れは、本校にとって初めてのことで、受け入れ初日は留学生が所属する高校1年生全員による歓迎会を開催しました。留学生は在校



生宅でホームステイをしながら毎朝登校し、在校生と同じ授業を受けています。GAコースの課題研究にも取り組み、SGH全国高校生フォーラムで発表を行いました。また、日本語講座や日本文化体験講習会（合気道）を受け、遠足等の行事にも参加するなど、本校での生活にすっかりなじんでいます。留学生が充実した日本での日々を過ごすことを願うとともに、在校生にとっても多様性や異文化理解の良い機会となることを期待しています。

### SSH・SGH事業公開発表会 平成31年2月23日(土) 9:30~14:30(入退場随時可能)

SSH	SGH
	9:00 受付開始
	9:30 開会式（コナコピアホール） ・学校長挨拶 ・プログラム説明
10:30 受付開始	9:40 第1部・生徒による発表 ・高校2年 課題研究 発表 ・高校2年 海外フィールドワーク報告 ・高校1年 課題研究 中間発表 ・中学3年 国際セミナーから学んだこと（コナコピアホール）
10:40 生徒によるポスター発表 ・高校1・2年（多目的アリーナ）	
11:40 生徒による口頭発表 ・高校1・2年（コナコピアホール）	11:40 第1部・生徒による発表 ・高校1・2年 課題研究 ポスター発表（多目的アリーナ）
12:30 終了予定	12:30 昼食・休憩 生徒によるポスター発表をご覧ください（多目的アリーナ）
	13:10 第2部・スタンフォード大学 オンライン講座 一般公開
	14:10 閉会式 ・学校長挨拶 ・講評 など
	14:30 終了予定

※プログラムの詳細については今後変更になる場合もあります。ご了承ください。  
※本件に関するお問合せ及び見学申込は、本校事務部長・佐塚までお願いします。  
(電話072-671-0001・医大内線45110)

### 2019年度高槻中学校入学試験結果

(単位：人、倍)

	募集	志願者	受験者	合格者	倍率
<b>A日程</b>	165	588	551	219	2.5
男子	110	376	347	135	2.6
女子	55	212	204	84	2.4
<b>B日程</b>	105	1,247	1,038	432	2.4
男子	70	842	705	345	2.0
女子	35	405	333	87	3.8
<b>英語選択型</b>	若干名	26	23	16	1.4
<b>合計</b>	270	1,861	1,612	667	2.4
男子	180	1,226	1,059	484	2.2
女子	90	635	553	183	3.0



### ■学長再任

学校法人大阪医科薬科大学は、平成30年11月13日開催の理事会において、次期大阪薬科大学学長として政田幹夫氏（現大阪薬科大学学長）を選任（再任）しました。任期は平成31年1月1日から2年間です。

### ■2018年度学術交流・研究推進プロジェクトについて

本学では学外教育研究機関及び医療機関との共同研究を推進し、独創的な先端研究を支援することを目的として、今年度から「学術交流・研究推進プロジェクト（学内競争的資金制度）」をスタートさせました。平成30年9月15日に開催された「2018年度学術交流研究発表会」では26件の研究提案があり、外部審査委員を含めた審査委員により厳正な審査が行われ、11件の課題研究助成と8件の科研費助成が採択されました（総額1490万円）。本制度を契機に、提携する学外教育研究機関及び医療機関との共同研究が更に活発化されることが期待されます。

採択された課題研究の成果は、次年度開催予定の「学術交流・研究推進シンポジウム」において発表の予定です。

### ■地震被害による改修工事進捗状況

大阪北部地震によって被害を受けたD棟講堂の吊天井改修工事が平成30年12月に完了しました。現在も引き続き、体育館の館内LED化工事を含む吊天井改修工事を行っており、2月下旬に完了予定です。また、3月よりC棟3・4階トイレ改修工事も予定しています。今後も学生が安全・安心に利用できるような施設・設備の維持・向上に努めます。



### ■多目的室オープン

図書館4階のAV利用室を改修し、「多目的室」として平成30年11月に新しくオープンしました。

多目的室には可動式の机と椅子、電子黒板、ホワイトボード等を備え、セミナーやグループワーク、ミニシアター、クラブ活動の動画確認等に利用できます。ノートパソコンの貸し出しも行っていますので、どうぞ大いに活用してください。



### ■「薬大ガーデンキッチン」人気のキッチンカーが薬大に集合！

平成30年5月に初出店し好評だったキッチンカー第2弾が、平成30年12月18〜20日の3日間出店しました。ステーキ、タコス、ケバブ、たこ焼き、クレープ、カフェなど日替わりで3〜4店舗が営業しました。当日は寒い中にもかかわらず行列ができ、早々と売り切れる商品もあり、大変好評でした。



### ■大阪薬科大学 第18回公開シンポジウム

薬剤師として『がん患者』と向き合うために(1)  
— 最新がん医療とがん教育に学ぶ —

**日時** 2月24日(日) 午後1時〜4時30分

**場所** 大阪梅田・ハービスENT9階  
1・2・3号室

**対象** 病院薬剤師及び薬局薬剤師、がん医療に関わる方、学生。  
一般の方の参加も歓迎します。  
※入場無料。申込不要。

膀胱をとらずに治す新規膀胱温存療法  
バルーン塞栓動脈内抗癌剤投与方法  
(大阪医大式膀胱温存療法)  
大阪医科大学泌尿器科学教室・教授  
東治人

Onco-Cardiology.jp  
— 抗がん薬の心筋に対する晩期障害 —  
大阪国際がんセンター 腫瘍循環器科  
塩山涉  
青少年へのがん教育  
〜中学生に対するがん教育の実施および生徒の意識変化〜  
神戸薬科大学・教授  
沼田千賀子

# チーム 大阪医大の現場力 vol.13

## 感染対策室

大阪医大のチームの一員である各部署を紹介するシリーズです。今回は感染対策室をご紹介します。



医療の高度化・専門化に伴い、医療はより複雑となり、耐性菌をはじめとする院内感染対策の重要性がますます高まっています。大阪医大病院で院内感染対策を実施できるような支援する役割を担っているのが感染対策室です。室長の浮村、副室長

の大井幸昌医師の2名の感染症専門医に加え、感染管理看護師（ICN）、抗菌化学療法認定薬剤師、微生物検査専門の検査技師など感染制御と感染症診療の専門家を中心に11名で活動しています。

感染対策室には、感染制御の専門家である感染制御チーム（Infection Control Team:CT）と感染症診療を専門とする抗菌薬適正使用支援チーム（Antimicrobial Stewardship Team:AST）を設置し、多職種が連携したチーム医療を実践しています。

感染制御チームは定期的なICTRラウンドを実施し、日常の感染対策を推進・徹底しています。抗菌薬適正使用支援チームは定期的なミーティングで詳細な検討を行った後（写真左中）、ASTラウンド（写真左上）や血液培養ラウンドを実施

## 専門家によるチーム医療で院内感染対策を担う

し、感染症コンサルテーションを行うことで、耐性菌の抑制のため抗菌薬の適正使用を推進し、感染症診療を支援しています。



これらの活動が適正に行われているかについて、私立医科大病院感染対策協議会の大学病院同士の相互ラウンドや高槻市・茨木市・摂津市の主要な病院が参加する北摂四医師会感染対策ネットワークの病院同士の相互ラウンド（写真左下）など、複数の外部評価を定期的に受けています。また、高槻市保健所と連携しながら、地域全体の院内感染の抑制と感染対策のレベルアップのため、感染症診療と感染対策に関する普及啓蒙活動も行っています。今後とも感染対策室にご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

（室長 浮村聡）

## 病院ボランティアグループ「ふれあい」は人と人が向き合ったヒューマンサービスを目指しています

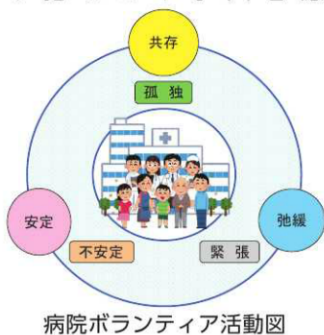
### 病院ボランティアグループ ふれあい

研修会編

病院ボランティアの初診案内・患者誘導グループは、病院や患者さんの多様なニーズに沿った活動について検証や評価を行い、ボランティア同士が課題の解決や成功事例を共有できるようミーティングの機会を設け取り組んでいます。次年度の目標を「初心に立ち返り新たな活動のスタート」と決めました。

ボランティア支援室では、目標を支援できるように「病院ボランティアとは」について一緒に考察しました。病院ボランティアは、ボランティア自身の「自発性・社会性・無償性・先駆性」の原則に基づいた活動で、医療者とは異質のユニークな存在です。活動には楽しさだけではなく、つらさを伴う事もあります。活動に望まれるのは、普通の感性の持ち主です。共感し、理解を示す心を持った人です。患者さんの伴走者として、共に歩む姿勢と静かな所作が求められます。

ボランティアグループ「ふれあい」は患者さんの声に耳を傾けながら、病院と協働して「存在」そのものが癒しの提供者となり、大阪医科大学病院のチームの一員として新たな活動を目指してまいります。



（広域医療連携センター）  
ボランティア支援室 担当課長 小篠明

# 水彩画と私

—ツバキ—

絵・文 名誉教授 富士原彰



ツバキ（ツバキ科 ツバキ属）

漢字だと木へんに春と書く。名の由来は、光沢のある緑色の厚い葉という意味の「強葉木」や「艶葉木」からきているという。

## 新春に思う

ツバキ。早春を代表する日本古来の美しい花木。赤のイメージが強いが、園芸用に改良され白やピンク等の花もある。白いツバキは1月25日生まれ私の誕生花であり、花に託された言葉は「至上の愛らしさ」「申し分ない魅力」である。

10年前に古希を迎えたとき、「昔なら、この年齢まで生きている人は稀でした。よくこの年まで元気でめでたいことです。これからは若いもの言うことに素直に耳を傾け、他人の意見に反発せず、欲望のままに」と祝言をもらった。欲望のままに——なかなかそうは思いどおりいかないもの。いろんな悩み事に翻弄され、今年80歳を迎えた。

さあ、これから残りの人生どう生きようか。さらなる長寿を願う神社に出かけた。節目の年の安寧をお願いする厄除け祈願の年表に、私に相当する年齢は見当たらない。これからは余分の人生ですということか。いや、思うがままということだろう。

冒険家三浦雄一郎がいう。「人生はいつも今日から始まる。生かされている間は精一杯この人生を楽しもうじゃないですか」と。

こうありたいと願い、次のステップを踏み出そう。悔いのないように。

# 大阪医科大学

# ホームページ

昨年3月に本学のホームページをリニューアルしました。  
今号では新ホームページの軸コンテンツである「研究」をご紹介します。

## 研究

どんな研究をしているの？  
どんなシーズやニーズがあるの？

### 研究最前線

本学で行われている研究を、  
領域横断的に紹介。

研究最前線

**がん放射線治療の現在**  
Epsilon 004 世界に先駆ける放射線治療の進化  
がんの人工免疫、のっぴきである放射線治療の歴史と最新トレンド、そして「放射線治療」の世界の未来を展望する。

**若手でつなぐバイオバンク**  
Epsilon 004 国際研究を加速させる  
国際共同の最先端から得られたデータを大学全体で共有する環境作りへ、大学が高度な取り組みで取り組む二人の先生のストーリーを語った。

**若手でつなぐバイオバンク**  
国際共同で加速する、大学の未来を担う

**医療素材イノベーション**  
Epsilon 004  
「Epsilon」も、「Epsilon」にもっとも近い未来を

大阪医科大学 研究シーズ&ニーズ集 Vol.4 (2018年4月)

### 健康寿命をのばす たかつきモデル

健康寿命をのばす  
たかつきモデル

文部科学省平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」選定プロジェクト  
事業名：オミクス医療に向けた口腔内細菌叢研究とライフコース疫学研究による少子高齢化都市適応モデル創出

ますます高齢化が進む中、予防医療・高齢、これらで、どのように変革し、どのように変革することで「健康」となり、「たかつき」の健康とつなげるのでしょうか？

高齢化を加速する大腸癌は、口腔ケアと「がん」(腫瘍)も切り口。「次世代オミクス医療研究拠点」も研究が、行政や社会と連携して、本事業の成果として「健康推進プログラムの地域共創の展開」、「健康推進拠点の創出への推進、及び「健康推進による研究推進」により、「たかつき」の健康寿命をのばし、健康を達成するモデルの創出を期します。

【院内推進】  
・院内推進委員会  
・院内推進委員会  
・院内推進委員会

【外部連携】  
・大阪府立大学  
・大阪府立大学  
・大阪府立大学

### 研究シーズ&ニーズ集

玉置先生、「ライフコース疫学研究」ってなんですか？  
プロジェクト研究員インタビュー 玉置教授

「ライフコース疫学研究」は、人生の全期間を通じて健康状態を把握し、疾病の予防や治療に役立てることを目指す研究です。本学では、最先端のオミクス技術を活用し、個人の健康状態を詳しく解析し、健康寿命を延ばすための研究を進めています。

「研究最前線」や  
「研究シーズ&ニーズ集」を中心に、  
最新の研究情報を発信。

文部科学省平成29年度  
「私立大学研究ブランディング事業」  
選定プロジェクト

学校法人 大阪医科薬科大学  
Educational Foundation of Osaka Medical and Pharmaceutical University

大阪医科大学

大阪薬科大学

高槻中学校  
高槻高等学校

〒569-8686  
大阪府高槻市大学町2番7号  
TEL:072-683-1221(代表)  
https://www.osaka-med.ac.jp/

〒569-1094  
大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号  
TEL:072-690-1000(代表)  
https://www.oups.ac.jp/

〒569-8505  
大阪府高槻市沢良木町2番5号  
TEL:072-671-0001(代表)  
https://www.takatsuki.ed.jp/

- 【学部】
- ・医学部医学科
  - ・看護学部看護学科
- 【大学院】
- ・医学研究科(医学専攻)
  - ・看護学研究科(看護学専攻[博士前期課程])
  - ・看護学研究科(看護学専攻[博士後期課程])

- 【学部】
- ・薬学部薬学科(6年制)
  - ・薬学部薬科学科(4年制)
- 【大学院】
- ・薬学研究科(薬学専攻[博士課程・4年制])
  - ・薬学研究科(薬科学専攻[博士前期課程・2年制])
  - ・薬学研究科(薬科学専攻[博士後期課程・3年制])

- 【6年制完全一貫教育を実践】
- ・中学校(GLコース)(1年・2年・3年)
  - ・高等学校(GSコース)(GAコース)(3年)
  - ・高等学校全日制課程普通科(GLコース)(GSコース)(GAコース)
- 【文部科学省指定】
- ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)
  - ・スーパーグローバルハイスクール(SGH)